

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2472900246		
法人名	医療法人 豊和会		
事業所名	グループホーム 第2やまもも		
所在地	三重県志摩市阿児町鷺方2555-9		
自己評価作成日	平成 22 年 7 月 1 日	評価結果市町村提出日	平成22年8月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://kaigos.pref.mie.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2472900246&SCD=320>

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	平成 22 年 7 月 28 日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

病院併設の施設であり、職員は医師、看護師をはじめ理学療法士、薬剤師、栄養士など様々な職種と連携し利用者様を24時間サポートしている。地域の中で、利用者様も職員も笑顔で過ごすひと時を大切にしている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

志摩地域で「豊かな感性と優れた専門知識を礎に、医療・福祉・保健の分野で地域に貢献し和のこころを大切に社会的責任を果たす」との理念のもと設立された医療法人本部敷地内にあり、病院、在宅総合センター(有料老人ホーム、居宅支援事業所、訪問看護、訪問介護、デイサービス)と併設されている事業所である。特に病院とは密に連携しており、リハビリ室への通い、定期健診の受診、重度化した場合の対応等健康面や医療面で安心感のある事業所である。また、事業所内は「ゆっくり、楽しく、一緒に、豊かに」をモットーに笑顔が絶えない雰囲気大切にしている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中の‘利用者様の家’であることを忘れず、サービス提供を心掛けている。	「地元でゆっくり、楽しく、一緒に、豊かに暮らし暮らす家を目指します」を事業所理念としている。また、理念を事務所内外に掲示するとともに日々のミーティングで話し合い、笑顔の絶えないケアを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	動作の機能の低下が進み、なかなか地域の中に出ていけない日が多くなってきている。せつかくの絆を絶やさぬよう、交流の方法を模索している。	地元自治会に加入し、利用者共々町内清掃作業に参加したり、小学校の運動会に出向いたりしている。また、隣接の有料老人ホームとは催しに招かれたりし、交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括ケア会議の中で、『地域で認知症の方を支えるための取り組みについて』というグループに参加し、ノウハウを生かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で、参加行事や活動状況、サービス評価結果などについて報告し、改善のためのアイデアやご意見を頂き、運営に生かしている。	会議は概ね2か月毎に開催している。メンバーは市介護保険課職員、包括支援センター職員、自治会代表、民生委員、老人会会長、利用者及び家族代表並びにホーム長、職員代表で構成され、事業所の現況や課題を協議している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市役所と地域包括支援センターより1名ずつ参加頂き、ケアサービスの取り組みについて伝えると共に、日頃からメールなどで情報をやり取りしている。	ホーム長は市の介護保険課や地域包括支援センターと各種申請更新手続き時等に情報交換や相談を行なっている。また、職員は市の地域包括ケア会議や市のふくし総合支援室主催の各種研修会参加時にも情報交換している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止や高齢者虐待防止のための講習会に参加し、職員全員が理解し取り組んでいる。	ホーム長以下全職員は職員会議での勉強会で拘束や虐待のない支援について話し合い、実践している。また、玄関は自由に入出りでき無施錠である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連の講習会などには積極的に参加し、日頃から意識して防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	関連の講習会に参加し、資料などを不参加の職員にも回覧し情報を共有するようにしている。またパンフレットなどを分かり易い所に置き、ご家族にも見て頂けるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	相談員より十分説明を行い、同意を得たうえで契約頂いている。入所前に施設を見学いただいたり、体験利用もできる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設け、ご家族や利用者様から気軽に意見を伺うようにしている。また、運営推進会議にも参加頂き、運営についての意見を頂くよう促している。	重要事項説明書に事業所の苦情受付窓口を明記し、玄関には御意見箱を設置している。また、家族面会時に職員が相談を受けたり、運営推進会議で意見を聞いたりし、受け付けた意見等は職員会議で検討対応している。	利用者及び家族が意見、要望等を外部者にも表せるよう、法人本部や行政等の受付窓口及び担当者を重要事項説明書等に明記と説明することを望む。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを毎日行い、気軽に意見が言える職場作りを心掛けている。また、申し送りノートなどに提案を書いて、業務改善に努めている。	ホーム長(管理者)は日々にミーティングや申し送りノート、更には毎月の職員会議で職員の意見や提案を受けとめると共に、必要に応じて法人業務会議に提起し、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課により個々の努力や資格などの能力を給与に反映すると共に、社会情勢に合わせ昇給も行われている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年1回以上の研修受講を義務付け各自自主的に取り組んでいる。研修情報の提供や、受講費の補助を行うと共に、資格取得に向けて勤務体系などでサポートしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会や志摩市介護サービス連絡協議会に所属し、相互交流、連携に努めている。インターネットを使った速報など、サービス向上の為に最新情報の収集に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時の聞き取りで利用者様やご家族の現在に至るまでの経緯を伺い、どんな生活を送りたいかなど要望に耳を傾け、その情報を職員全員が共有しより良いサービスの提供に役立てている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	グループホームの相談員が利用者様の自宅を訪問し、ご家族を交えゆっくり話を伺う機会を持っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	経験豊かな相談員が初期対応し、ご本人やご家族が一番必要としているサービスを見極め、支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームの理念にも“一緒に”という言葉があるように、一緒に働く、一緒に笑うなど、一緒に暮らす家族のようでありたいと心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様とご家族の架け橋となるよう、日頃からお便りや、面会に見えた時、時にはメールも活用して利用者様の様子を積極的に伝えるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブで利用者様の地元を訪れたり、お墓参りの支援などをしている。	職員は一人ひとりに寄り添い、アセスメントシートや家族等の話しから思い出話や昔の唄を聞いたりと思いを共有し、時には、馴染みの人への賀状作成や、馴染みの場所にドライブする等支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ソファアの座る場所や食卓の席など、利用者様同士の関係を配慮して、トラブルのないよう、孤立しないような配置にしたり、皆様が心地よく過ごせるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方にお便りを出したり、仲の良かった利用者様と面会に伺ったりして、より良い関係の継続に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食事の好き嫌いや洋服のお好みなど、利用者様の意向を職員全員で共有しサービス向上に努めている。お部屋の模様替えのお手伝いなど、要望に応じ対応している。	職員は、一人ひとりに寄り添い対応している。また、意向の把握が困難な場合は本人の些細な表情や行動並びに家族等との話合いから理解するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の面接で過去の生活歴についてなど聞き取り、介護記録にファイルして職員全員が情報を把握、日頃のおしゃべりの話題に役立てたり、サービス提供に生かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活のリズムや心身の状況など3か月ごとにチェックし、介護計画に反映するなど現状の把握に努めている。また、毎朝バイタルチェックを行い健康管理に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月に1回モニタリングとプランの見直しを行い、利用者様の状態に応じた介護計画を作成している。	計画作成担当者(ホーム長兼務)が把握した本人の状態や課題をもとに毎月の職員会議での意見交換、本人や家族の要望及び医師の意見等を踏まえて3か月毎に介護計画を策定、見直ししている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様個々の介護記録があり、食事、排泄、投薬、日々の様子などを記入し、職員全員が情報を共有できるようにしている。出勤時には職員全員が必ず目を通して見ている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの要望に応じ、訪問診療やリハビリテーションを取り入れるなど、柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議などで地域の情報を収集し、催しや集まりに参加させて頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設病院の医師が主治医であり、定期的に健康診断を実施するなど健康管理に努めている。また、その他の病院の受診や往診の手配も支援している。	本人、家族希望のかかりつけ医での受診を継続すると共に協力医療機関である隣接病院と連携した巡回看護、定期健診、リハビリ等の受診支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携を取っている看護師が定期的に巡回し、利用者様の健康管理や様々の相談に応じてもらっている。巡回以外でも、24時間連絡が取れる体制である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	相談員が日頃から内外の医療機関と連携に努め、入退院時の手続き等迅速に行える体制である。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時の契約で、重度化した場合の方針について、話し合い、同意をいただいている。	利用開始時に「重度化に係る指針」を元に本人、家族に事業所でできること・できないこと等の対応を説明し同意を得ている。また、重度化した場合、ケアは隣接の病院や系列老人保健施設で行なう方針であり、転居の時期等主治医や家族に相談しながら本人、家族の意向に副えるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員に、2年に1回の消防署での救命講習を義務付けており、ホームで講習の手配等行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練で全職員が対処方法を身につけると共に、運営推進会議を通じて地域の方へも協力を呼び掛けている。	2回/年(6月、12月)消防署の指導のもと防災避難訓練と研修を隣接病院と合同で行なっている。	1人勤務時の夜間の災害を想定した避難路確保、通報、職員招集、避難誘導等訓練の実施を早急に検討されることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	時には方言も交え、利用者様に合わせ解りやすい声掛けを心掛けている。また、排泄や入浴などの時は特にプライバシーに配慮した介助を行うよう努めている。	ホーム長以下全職員は職員会議や日々のミーティングで態度、挨拶、言葉かけ等について話し合い、一人ひとりの誇りや自尊心を損ねない対応を実践している。また、個人記録等書類は収納場所を定めて取扱いには気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思の決定に時間がかかる方が多いので、常にその事を頭におき、遠慮なくご自身の思いを表わせるよう、ゆっくり待っている事を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の笑顔がたくさん見られるような1日の過ごし方を常に考え、マニュアルに捉われず臨機応変に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回美容師の訪問があり、お好みのヘアスタイルにして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立には旬の素材を取り入れ、季節感が出るよう心掛けている。食事の準備や片付けは、出来る範囲で利用者様に手伝って頂いている。	献立は介護食士資格の職員が担当し、利用者の希望や季節感に配慮している。野菜の前処理や後片付け等は利用者も手伝っている。食事は自前の食器で、職員も食卓を囲み穏やかな雰囲気である。又、たまの外食も楽しみになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の形状や食器など、一人ひとりに適したものを用意している。歩行の困難な方には水分補給のため、個々のペットボトルにお茶を用意して、いつでも飲んで頂けるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの能力に応じ、声を掛けたり、職員が介助したりして口腔ケアに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄のパターンを把握し、さり気なくトイレに誘導するよう心掛けている。また、排泄量など介護記録に残し、支援に役立てている。	日々の排泄記録と本人の訴えや表情から理解に努め、一人ひとりのパターンに合わせた誘導によりトイレでの自立排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の食事に乳製品や食物繊維豊富な食材を多く取り入れ、便秘の予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は1～2日おきに入っているが、お風呂は毎日用意しているので、希望があればいつでも入って頂けるようになっている。一人づつゆっくり入って頂けるよう、また、一人で入りたい方はそっと見守るなど、個々に応じて支援している。	毎日午前中、入浴できる態勢になっているが、本人の希望も聞き一日おきには入れるようしている。介助に当たっては話を聞いたり、一人浴を見守る等、こころを和ます支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	部屋の室温や寝具など快適に眠って頂けるよう配慮し、支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬はすべて職員が管理し、個々の薬の説明書をファイルして、間違いのないよう気を付けて支援している。症状の変化は迅速に主治医に報告し、状態に応じた投薬をして頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の能力に応じ、出来る範囲でホームの仕事を手伝って頂いている。アニマルセラピーやボランティアの方の踊りの慰問のイベントに出掛けたり、気分転換に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見やドライブなど、気候のいい日はなるべく外出するよう心掛けている。また、希望に応じ墓参りや買物の支援を行っている。	季節ごとの花見やドライブ、外食とは別に、日々の玄関前の花の水遣り、隣接病院へリハビリ通い、有料老人ホームへの催し見物、また、近隣を散歩したり、時には買物に出掛けたり、個々の希望に添った支援をしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方はお預かりしているが、自分で管理している方もある。ご希望に応じて、必要な物を買ってきたり、一緒に買物に出掛けたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	耳の聞こえにくい方は、職員が代わって電話口に出たり、手紙を投函したり、年賀状などを毎年書いて頂いたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を生けたり、節句ごとの壁飾りをするなどして、季節感のある空間作りを心掛けている。足元は転倒されないよう、広くスペースを取っている。	病院の病棟を改装した建物は、廊下も広く全体に和らいだ雰囲気である。居間兼食堂にはソファや畳スペースもあり、壁は貼り絵、折り紙等の作品や写真が貼られた落ち着いた落ち着いた雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファには一人ひとりの座布団を置いて、自分の座る場所を認識しやすいようにしている。座る場所をご希望を伺ったり、仲のいい方同士座って頂けるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはお好みの家具を持ち込んで頂き、ご利用様が過ごしやすいような配置にしている。模様替えなどもお手伝いしている。	居室の入り口は今年、ドアからアコーディオンカーテンに改装され広く出入りし易くなっている。室内は使い慣れた家具等品々が持ち込まれ、思い思いの居室作りがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下の全般に手すりを配置し、歩行の不安定な方も安全に移動して頂ける環境である。トイレや居室入口のネームプレートを大きくしたり、写真入りにして分かり易いよう工夫している。		